

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 絹地区

図版集

II 踏査および文献調査による報告

2024年3月

小山市

有限責任事業組合 風景社

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

藺田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

調査のあらまし

2024年1月に踏査、文献調査、地図作成等行う。

- 01月16日(火) 小山東工業団地・伝河原・西高椅・小山梁
工業団地・上梁・小山東部産業団地・下梁
- 19日(金) 篠原・三夜・豆口・延島・伝河原・新川
中高椅・下高椅・上梁・西梁・下梁
- 22日(月) 舟戸・前舟戸・延島・上福良・中福良・中島
請地・休・福良橋
- 23日(火) 延島新田・上福良・中島・岸福・台・中河原

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

絹地区は、小山市北東部に位置し、



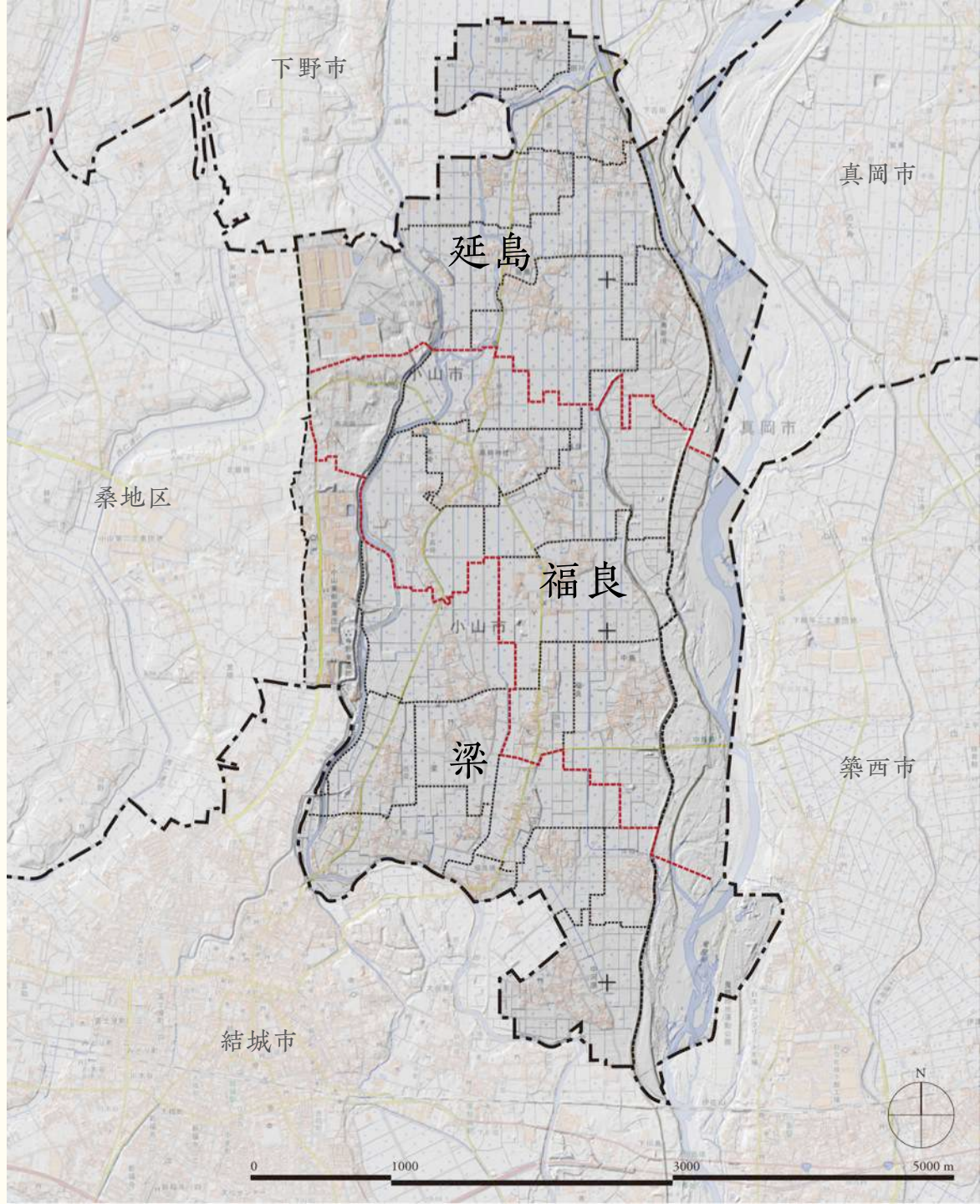
出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

ほぼ鬼怒川低地上に、西部が宝木台地上に立地。
「鬼怒川低地は幅約3 km」 「高度は延島で42 m、
西梁で38 m」 「鬼怒川の営力によってできた地域」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、10頁

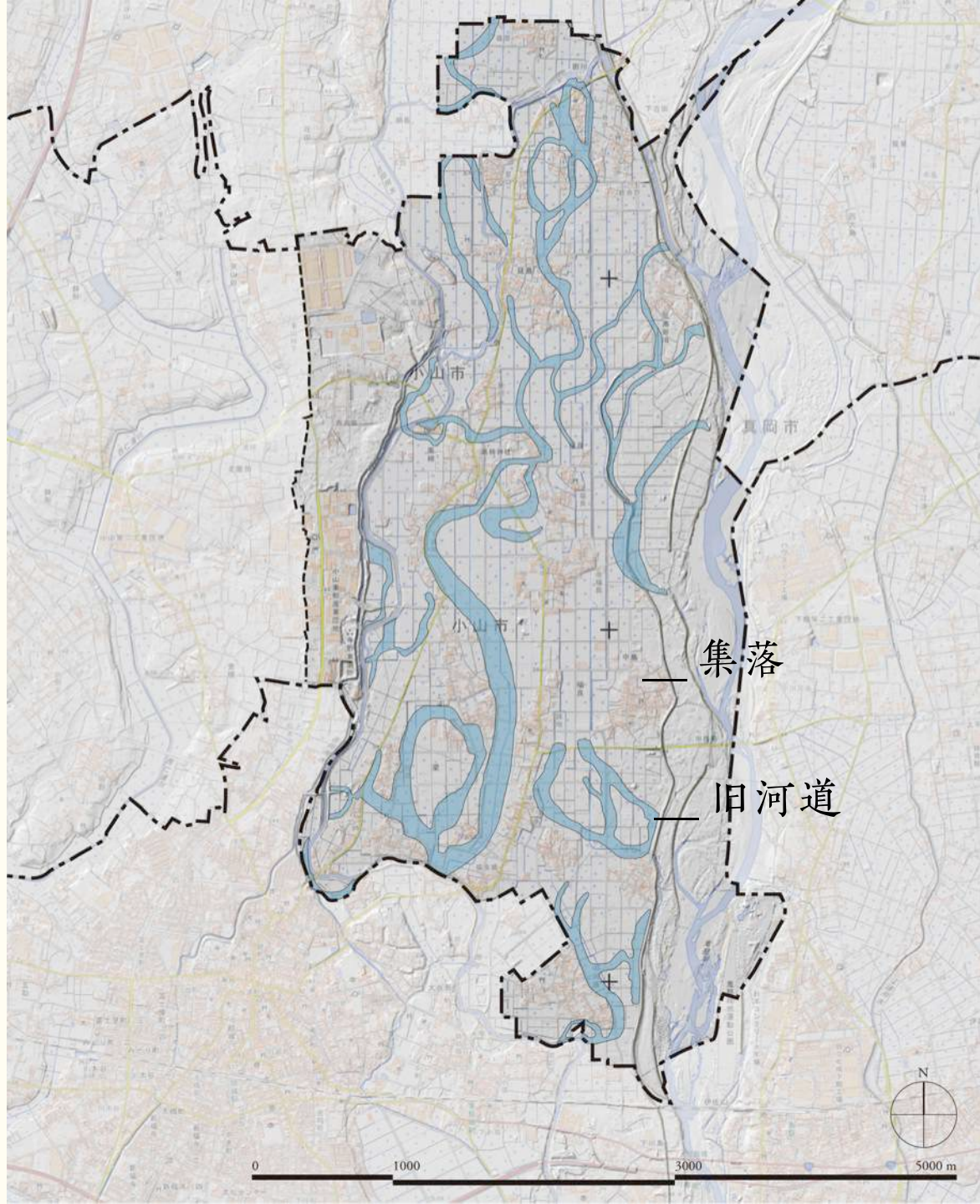
絹地区は、
延島（6自治会区）、
福良（10自治会区）、
梁（10自治会区）の
大きく3地区から
成ります。

出典: 絹地区わがまちげんき発掘事業推進
委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」
2017年
国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



「この地域は (中略)
集落の分布
している微高地と、
水田面を
なしている
旧河道とに
識別することが
できる」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 I 自然 原始・古代 中世』
小山市、1984年、10頁
国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)



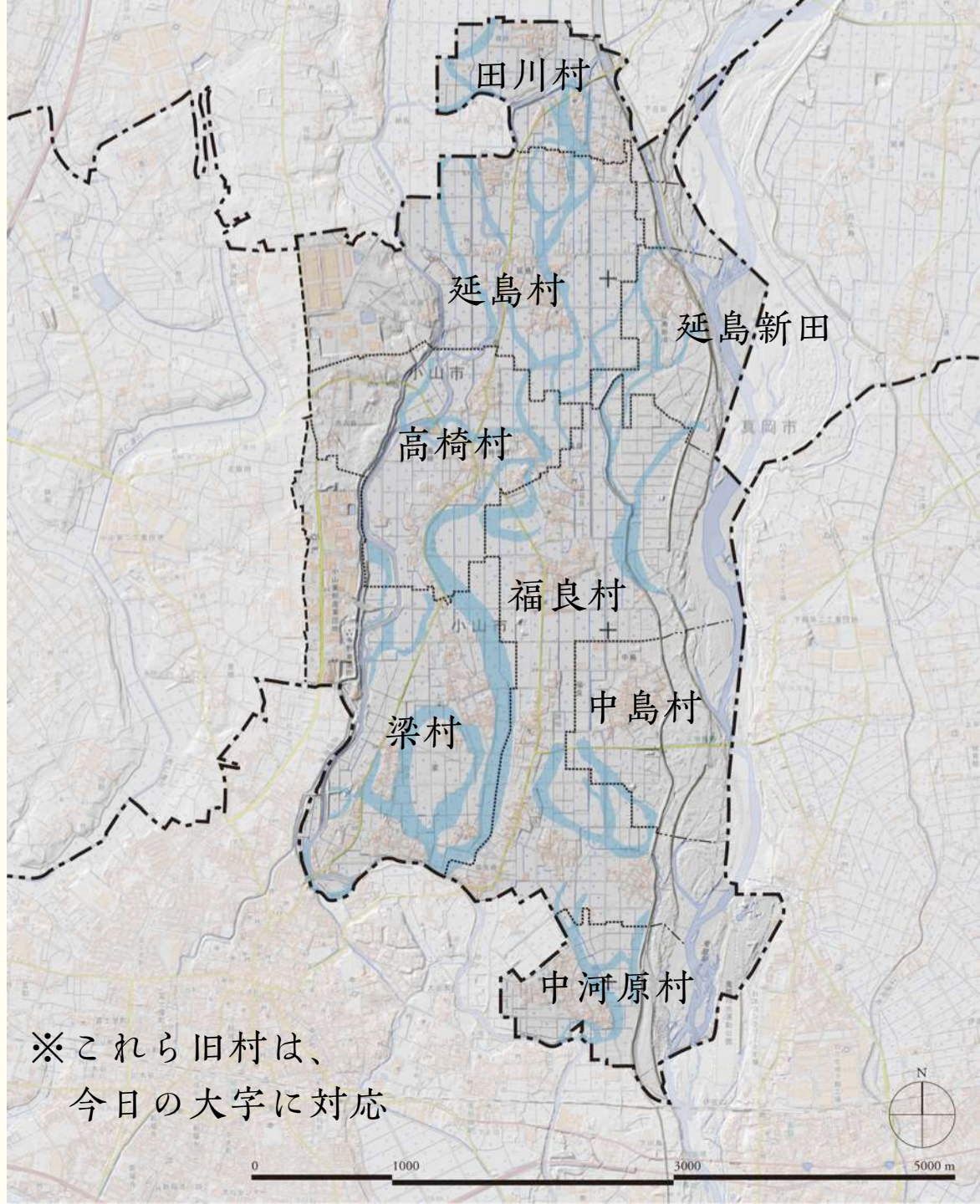
明治21年 (1888) に
市制町村制が施行。

田川村・延島村・
延島新田・高橋村・
福良村・中島村・
中河原村・梁村の
8ヶ村が合併して
絹村が成立。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 III 近現代』小山市、1987年、
209頁

国土地理院 | 地理院地図

<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



国土地理院が作成、
公開する
治水地形分類図。

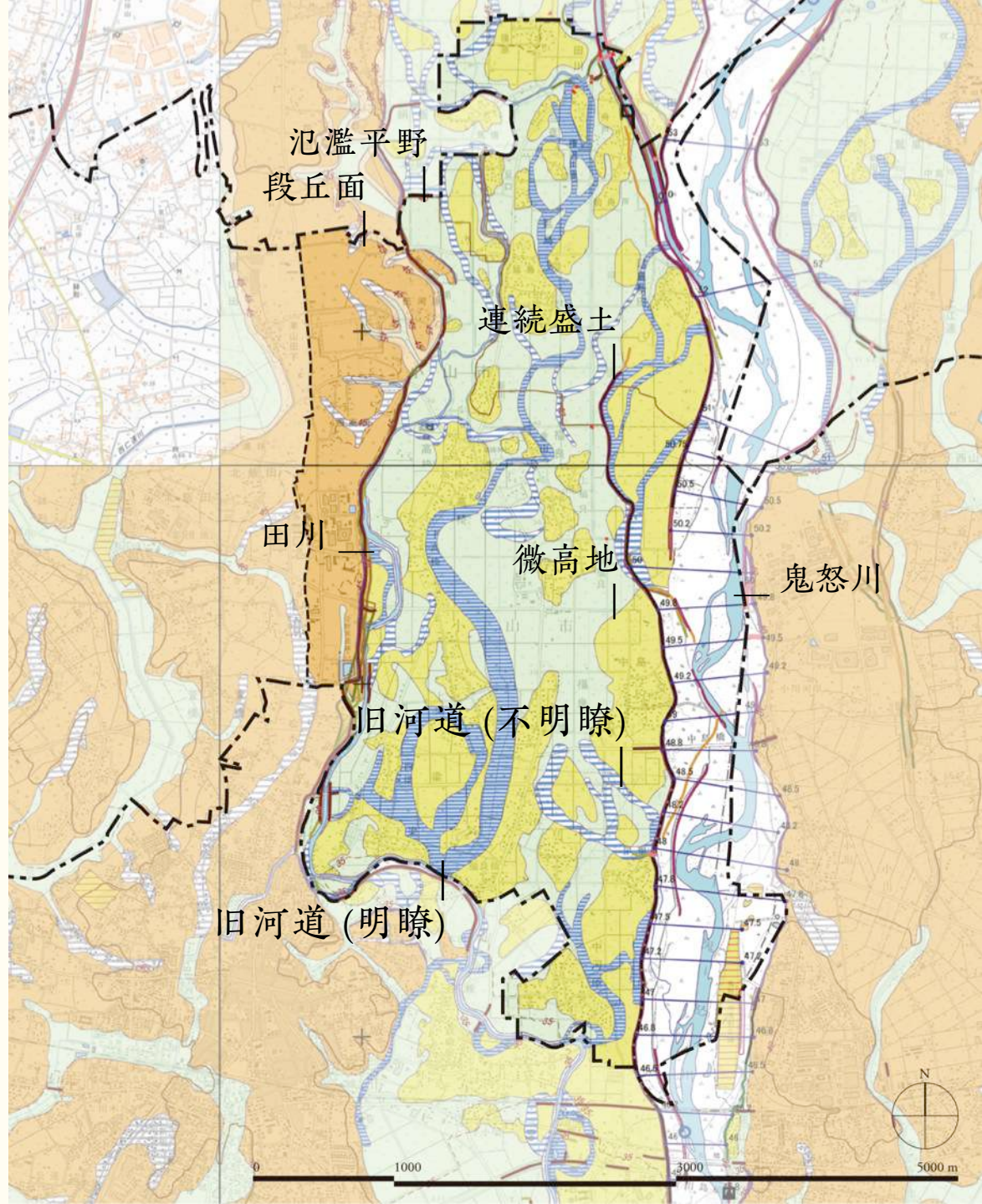
ここまで見てきた
旧河道は、
この図の旧河道
2種 (明瞭/不明瞭) を
合わせたものです。

出典: 国土地理院 | 地理院地図

<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

同上 | 治水地形分類図について

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fc_index.html





出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 治水地形分類図+陰影起伏図 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

治水地形分類図を立体的に見ます。現在と過去の鬼怒川の流れ (旧河道) を併せて見ると、「鬼怒川の営力によってできた」と市史に書かれるわけが...

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、10頁

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然への人の働きかけについて

「絹地区は、(中略) 鬼怒川によって形成された
低地帯にあって
同地区の西部を田川が南流(後略)」。

「茨城県との県境を挟んで結城町の北部に
接しており、結城町の市場圏に属する」。

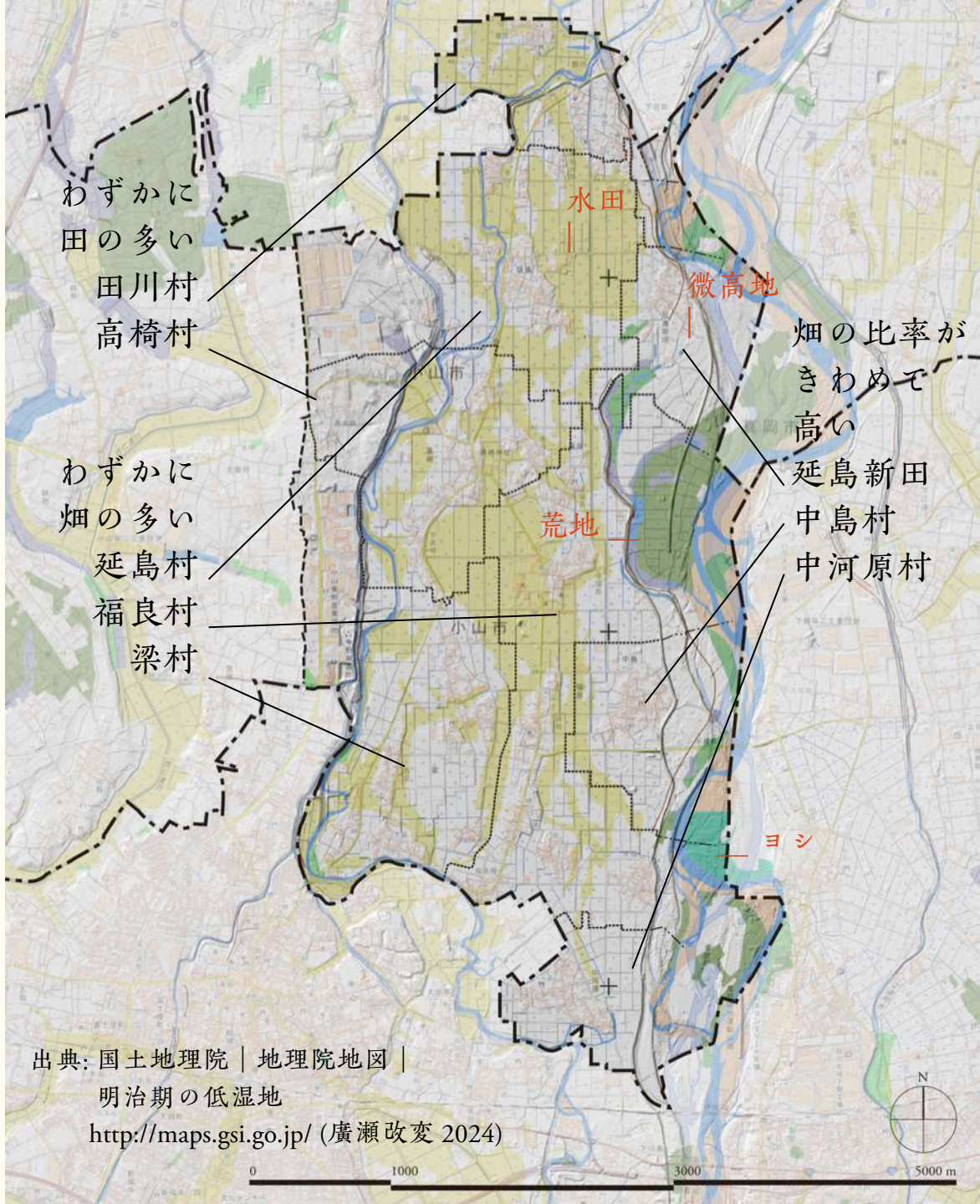
地域の自然への人の働きかけについて

「田畑比率は、各村によってかなりの違いが(中略)
田方の比率のほうが高かった村は、
高椅村・田川村で、(中略)
延島新田・中河原村・中島村は、
鬼怒川沿いにあって、(中略)畑方の比率が
きわめて高い畑作農村(中略)福良村・延島村・
梁村は、(中略)わずかに畑が多い村であった」。

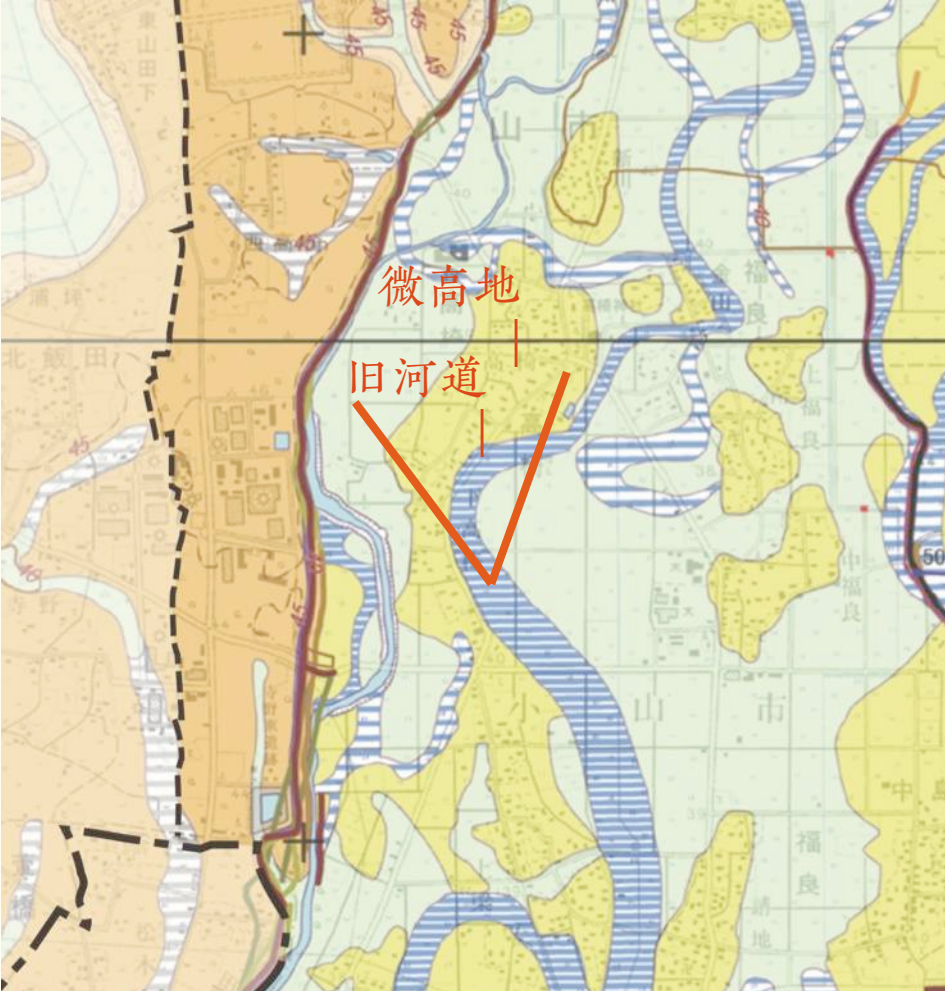
絹村成立時の状況:

- ・鬼怒川沿いの村々では、きわめて畑が多い。
- ・北部の村々では、わずかに田が多い。
- ・中央部-西南部の村々では、わずかに畑が多い。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 III 近現代』小山市、1987年、
212頁

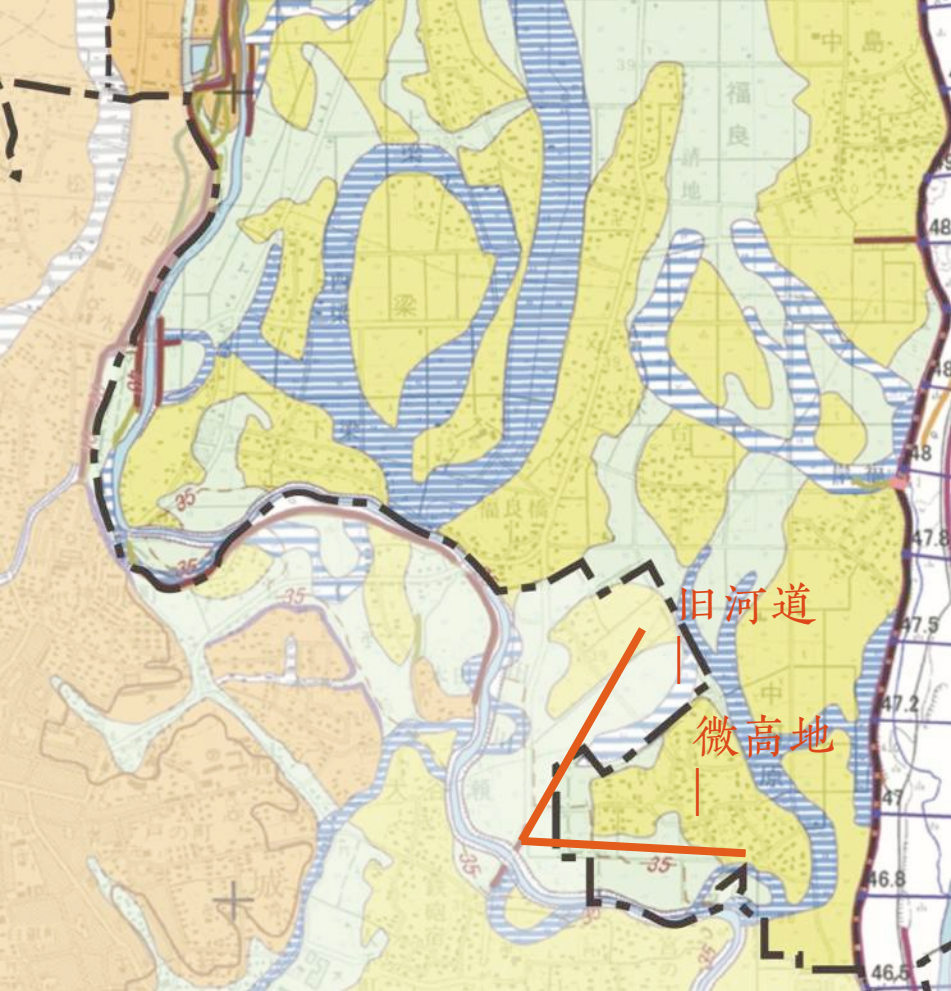


出典: 国土地理院 | 地理院地図 |
明治期の低湿地
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024) 旧河道に沿って湾曲した栃木県道35号。下高椅。2024/01/19

「高椅・梁付近の集落の分布している地域は
水田面から1~1.5 m上位にあり (後略)」。
写真は、左の地図に赤く記した箇所を写したものの。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024) 水田 (旧河道、氾濫平野上) と集落 (微高地)。中河原。2021/09/15

「集落の分布している微高地と、水田面をなしている旧河道と」。市史から再度引用します。
 畑作は、基本的に微高地で行われました。

平地林 (台地斜面林等)



平地林 (河畔林等)



延島。2021/09/15

延島新田。2021/09/15

「絹地区の各村々は、(中略) 平地林があったが、
それらは鬼怒川沿いに散在していたか、
または西部の桑地区との境に集中していた」。
「平地林も一定の面積が確保され、肥料や秣、
真木※・薪の供給源にはことかくことがなかった。



享保10年 (1725) 完成の吉田用水。2021/09/15 延島神社北東部。2024/01/17

上福良北側。2024/1/22。すべて延島で撮影

「さらに、田川から引入れている
数筋の用水によって給水されていた。
こうしたことから、農業生産の条件は、
市域内でもっともよい地区であった」。

「明治26年から
同28年までの間に、
米の三か年平均反収は、
絹地区が一石五斗八升で、
思川以西の
水田地域よりも多く
市域内でもっとも
農業生産力が高かった
地区であった」。

右の表をご覧ください。

村 名	反当たり収量
豊 田	1.17 石
穂 積	1.12 石
中	1.19 石
寒 川	1.06 石
生 井	1.18 石
桑	1.08 石
小 山	1.08 石
大 谷	0.83 石
間々田	1.38 石
絹	1.58 石

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 III 近現代』小山市、1987年、212-213頁

明治26~28年反当り平均収量
※1反=300坪=約1000 m²=約10 a。1石=10斗=100升=150 kg
出典: 『小山市史 史料編・近現代 II』

地域の自然への人の働きかけについて

「芋（里芋）の生産量は甘藷（薩摩芋）の生産量よりもはるかに多く」、このことは地区全体に当てはまりました。

「（前略）米や麦、大小豆、粟・稗・蕎麦などの主穀・雑穀のほか、（中略）蘿蔔（大根）や蔬菜類（冬葱・牛蒡・人参）などの自給用の野菜のほかに商品作物である菜種・葉煙草・藍葉なども」。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

近世には、中島、福良に河岸と渡船場が。また、結城から多功街道、上三川街道が通され、高崎で上三川街道と福良を抜けるもう一本の道が交差。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、206-207頁



鬼怒川。中島橋から下流側、結城方面を望む。中島。2021/10/06

「河は、人と貨物の通運にも利用された。
河によっての交流が文化の発展に寄与している
ことも忘れてはならない。紬の生産も販路も
まず舟運によって発展してきたのである。」



写真左: 結城紬に使う繭 (上繭一糸への適合品)。CC BY-SA 4.0 タバコはマーダー (2017/11/15) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=64080336>

写真右: 結城紬に使う絹糸を紡ぐ。CC BY-SA 4.0 タバコはマーダー (2017/11/15) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=64080334>

「悠々と流れる鬼怒川の沿岸は、古くから『かじ、
こうぞ』の雑木林を育成する土壤に富んでいた。
後に養蚕の技術が導入され、沿岸に大桑園が (中略)
蚕から繭に、そして絹糸を採り、織り物が発展」

地域の自然への人の働きかけについて

「結城地方の養蚕業は古く、『日本紀』^{にほんぎ}に
雄略天皇十六年（472）秋七月『桑に宜しき国県に
詔して桑を栽ゑしめたり』とあり（後略）」。

出典：石島滴水『紬の里結城』筑波書林、1983年、25頁

「元禄期に隆盛を誇った結城本場も、享保年間
（1716~35）から衰退しはじめた。繰り返される
洪水がその原因であったといわれるが、
いつの洪水によるかは諸説があって（後略）」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、220頁

地域の自然への人の働きかけについて

「当然、日本国内での蚕種の生産は発展し、生産地域も広がっていたが、栃木県の場合、幕末から明治初年において蚕種業はまだ（中略）栃木県が蚕種業の基盤である桑畑を本格的に開発しはじめる時期は明治四年（1871）の廃藩置県後（中略）日光県下の鬼怒川流域に一大蚕種業地を形成すべきことが力説（後略）」。



蚕室の換気装置である煙出櫓を擁する家屋。中福良。2024/01/22

「群馬県佐位郡島村の蚕種家たちにより延島新田の
桑畑の開発がはじまったのは、明治6年（1873）
9月からであり、翌年9月まで約一か年の長期に
（中略）蚕種家たちは養蚕開業社という結社を結成」。

地域の自然への人の働きかけについて

「幕末から明治初年にかけて生糸とともに
隆盛を誇った蚕種の輸出も、
欧州の蚕種対策が整うころから
有力な販売市場を失うこと」になります。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、236頁

「(前略) 雑多な蚕品種を、(中略) 優良な水準にまで
高めて統一し、生産生糸の高級化をめざす」
蚕種統一運動も、市場確保の一環として開始。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、585頁。同運動は明治40年代初頭から

地域の自然への人の働きかけについて

「明治42年（1909）7月、栃木県下都賀郡蚕種同業組合は県知事の認可を得たうえ、同年11月には農商務大臣大浦兼武の認可も受けて正式に発足することになった」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、585頁

「同組合は町村ごとに三区に分け、第一区を生井村（中略）、第二区を穂積町・小山町・間々田村・稲葉郷、第三区を絹村と定めた」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、587頁

地域の自然への人の働きかけについて

その背景には、明治40年（1907）の生糸恐慌が。
「米國財界悪化に基く需要の減退」、
「人絹（人造絹糸）の進出」、
中国から米国への生糸の輸出展開などが原因に。

出典：安彦孝次郎「日本経済における生糸恐慌」『商學論集』4（1）、福島高等商業學校經濟研究會、1933年、365-394頁

「産地の生産のピークは大正10年の53437反で、
昭和55年に31288反を生産した以降は年々減産し
平成5年に10000反を切る。その後も減産を重ね」

出典：奥澤武治「世界で稀な絹織物『本場結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁



以下の記事に「東島田の畑でテスト栽培中の桑の苗」とある圃場か。東島田。2023/10/11

「県内で唯一、蚕の餌となる桑の苗を専業で生産していた農家がこの春廃業し、市内の関係者は今後とも苗を入手して養蚕を続けられるよう奔走」。



社会福祉法人パステルは、運営する知的障害者支援施設の西側にクワを約1400植樹すると共に養蚕施設を設置。出井。2023/10/28

「JAおやまは、廃業した養蚕農家に苗のテスト栽培を
依頼（前スライド）。桑を使い事業展開する
社会福祉法人も、栽培技術の習得を模索する」。

地域の自然への人の働きかけについて

「絹地区の土は、主に沖積土。桑園にも向いた。
ただし、田川の近くでは粘土質で
沖積土と違う (黒ボク土までいかないが)」

「苺栽培も盛ん。1戸当たりの生産面積は、
おそらく栃木県で一番」。

出典: 絹地区グループインタビュー (農業従事者の方々) 記録 (2023/12/08)、

「『田園環境都市おやま』ビジョン 絹地区風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告」2024年、4頁

台地上の黒ボク土



旧河道沿いの灰色低地土 (沖積土) 微高地上の褐色低地土 (沖積土)



西高椅。2024/01/16

篠原。2024/01/19

下梁。2024/01/16

その後の地区の農業の展開を見てゆきます。
「絹地区の土は、主に沖積土。桑園にも向いた。
ただし、田川の近くでは粘土質で
沖積土と違う (黒ボク土までいかないが)」。



下梁。2024/01/19



上梁。2024/01/19

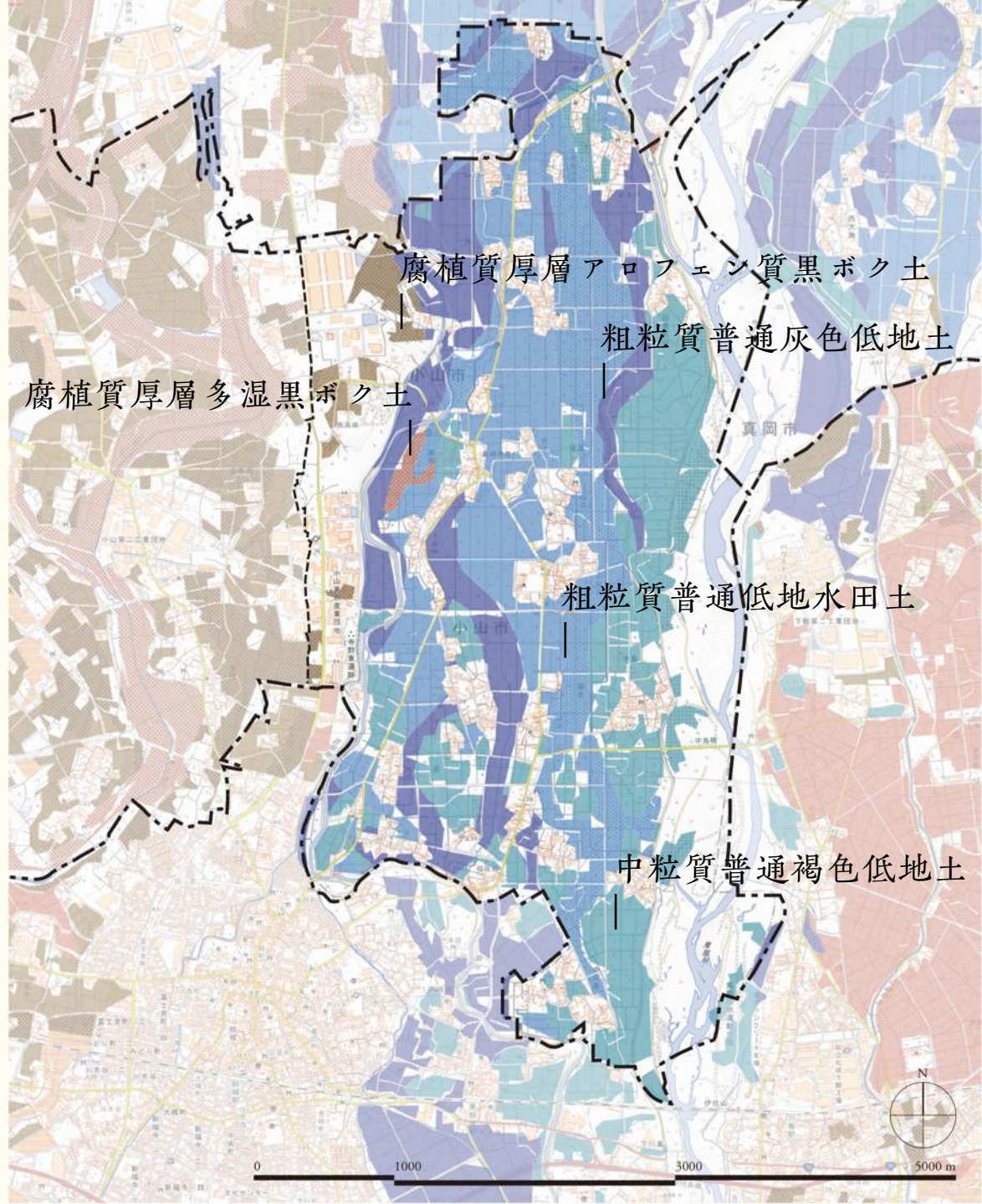


延島-上福良間。2024/01/22

「苺栽培も盛ん。
1戸当たりの生産面積は、
おそらく栃木県で一番」。

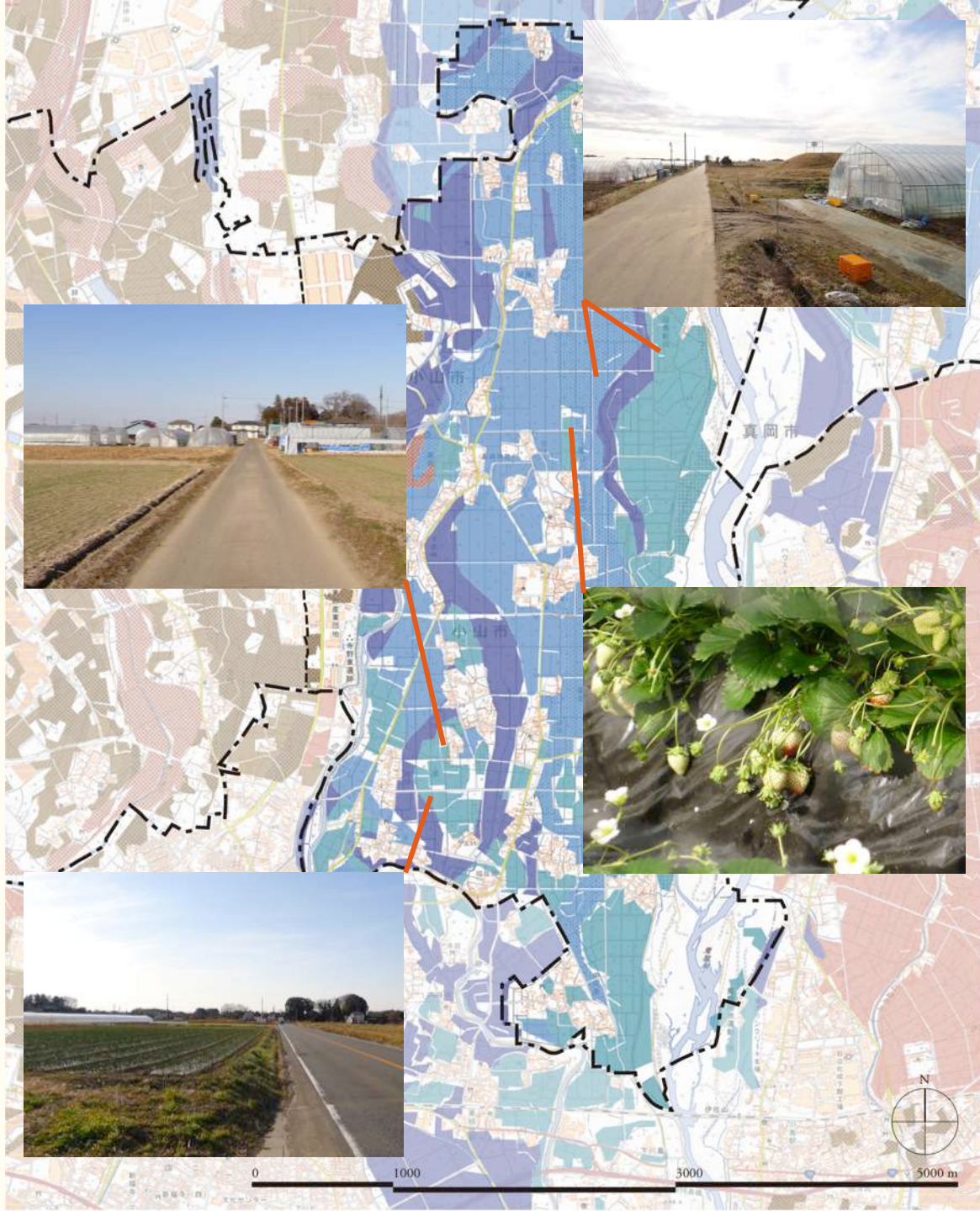
絹地区では、
台地に
火山灰に由来する
黒ボク土、
低地に河川の
堆積物に由来する
沖積土 (褐色低地土、
灰色低地土、低地水田土) が、
主に分布します。

出典: 農業・食品産業技術総合研究機構 |
日本土壌インベントリー | 土壌図
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html>
(廣瀬改変 2024)



踏査では、
微高地に分布する
褐色低地土と
作物の関係に、
特に留意を。
すべてを確認は
できていませんが、
イチゴや麦類の
圃場を目視。

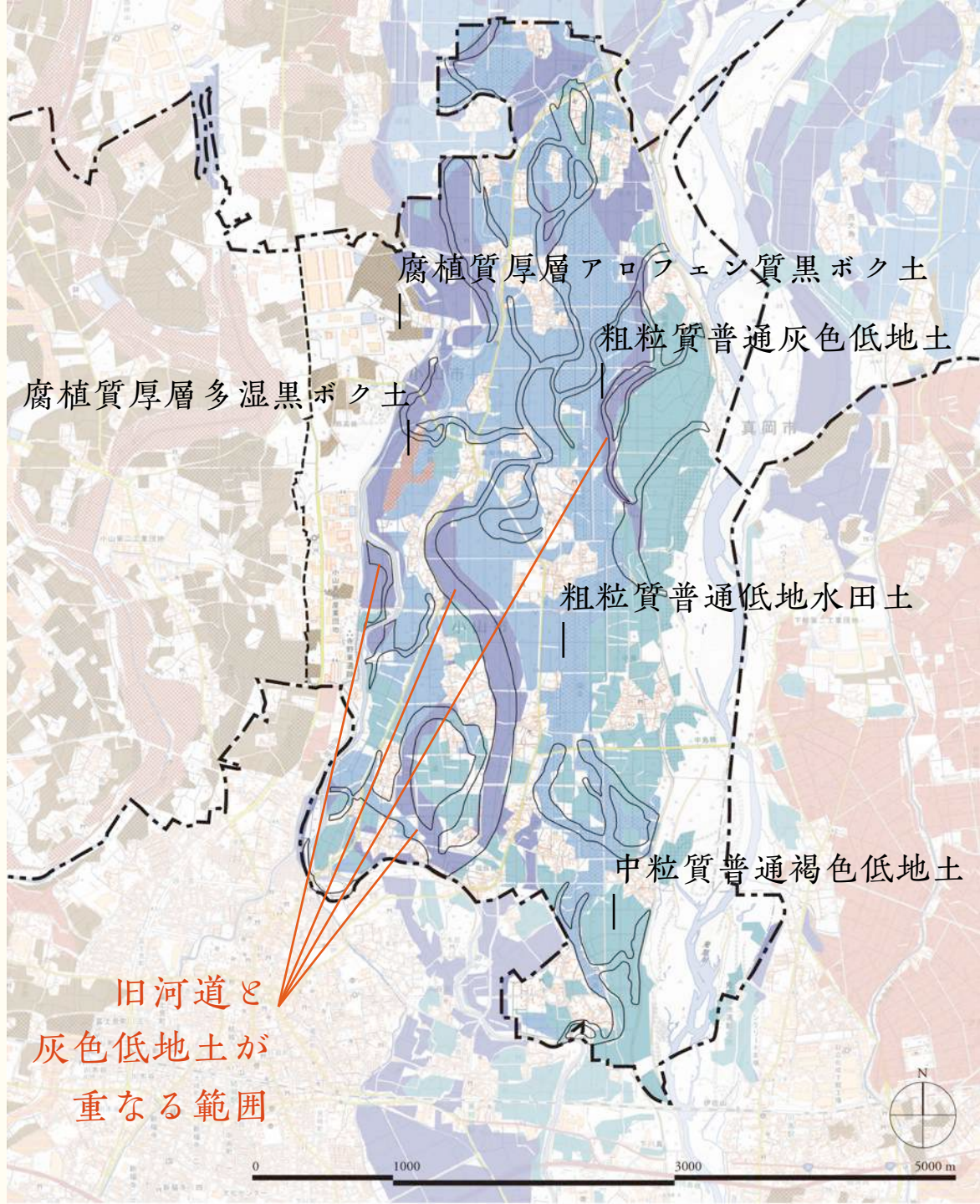
出典: 農業・食品産業技術総合研究機構 |
日本土壌インベントリー | 土壌図
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html>
(廣瀬改変 2024)



灰色低地土は、
「中間的な
湿性状態の (中略)
日本の水田の
代表的な土壌」。

低地水田土は、
「排水のよい (中略)
水田土壌」。

出典: 農業・食品産業技術総合研究機構 |
日本土壌インベントリー | 土壌図
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html>
(廣瀬改変 2024)





キウイ圃場 (写真左手)。前舟戸。2024/01/22

灰色低地土の分布域 (土壌図) でのキウイの栽培では、
土壌の保水性を生かしつつ排水性の確保が
図られていると考えられます。地形の微かな
高低差や土壌の違いに細やかに対応した農業が...

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと

絹地区 歳時記ウォーキング



第1回 福良地区(高椅神社)



絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」2017年

「誇れる歴史・文化・伝統・自然等を発掘し、
絹地区の魅力を再発見」。その通りの資料であり、

第3回 梁地区
第2回 延島地区(白草観音)



稲荷神社。篠原。2024/01/19



白草観音。舟戸。2024/01/22



延島神社。延島。2024/01/19



星宮神社。延島新田。2024/01/23

それぞれの集落で、
寺社や碑が大切にされていると感じました。



高崎神社。高崎。2024/01/19



大杉神社。上福良。2024/01/22



福城寺・神明宮。中福良。2024/01/22



稲荷神社。中島。2024/01/22

しめ縄や紙垂(しで)も、代替品ではなく
天然の材料を用いたものが用いられています。



八幡宮。上梁。2024/01/19



天満宮。休 (やすみ)。2024/01/22



香取神社。下梁。2024/01/19



神明宮。中河原。2024/01/23

しめ縄には、縄のない方にいくつかの種類があるように見受けられました。

地域と人々の心身の結びつき

「結城紬は1956年(昭和31年)に日本の絹織物として
『糸つむぎ・かすり・じばた・地機織り』が
国の重要文化財に指定され、
2010年には(平成22年)には世界の絹織物として
結城紬の製作工程が
ユネスコ無形文化遺産に」。

出典: 奥澤武治「世界で稀な絹織物『本場結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

地域と人々の心身の結びつき

「特に機織が地機^{じばた}→高機^{たかばた/たかはた}→動力を使った
足踏織機→動力織機→自動織機へと変遷し、
そうすると当然その織械に合った織りやすく、
効率の良い糸が使われる」。

「経糸^{たていと}が切れては困るため (中略) 紡績糸を使う (中略)
緯糸^{よこいと}にだけ真綿からつむいだ紬糸や
機械で作った真綿糸を使い、紬風に織り上げる」



写真左: 結城紬の地機 (いざり機) CC BY-SA 3.0 Moraykaita (2007年5月) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=56997298>

写真右: 結城紬亀甲柄 (投稿者私物) CC BY-SA 3.0 Moraykaita (2007年5月) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=133200379>

「機業地帯では生産技術が発展すると (中略) 高能率の
生産手段が普及するが (中略) 伝統的な製法を保持」。

地域と人々の心身の結びつき

「無形文化財遺産の保護に関する条約」より

第2条 定義

1 「無形文化遺産」とは、
慣習、描写、表現、知識及び技術並びに
それらに関連する器具、物品、加工品及び
文化的空間であって (後略)

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html (2024-02-14 参照)

地域と人々の心身の結びつき

この無形文化遺産は、
世代から世代へと伝承され、
社会及び集団が
自己の環境、自然との相互作用及び
歴史に対応して絶えず再現し、(中略)
文化の多様性及び人類の創造性に対する
尊重を助長するものである。

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html (2024-02-14 参照)

地域と人々の心身の結びつき

「社会及び集団が自己の環境、自然との
相互作用及び歴史に対応して絶えず再現し」

無形文化遺産は、自然、歴史に関係します。
その保護の手段としては、
「記録の作成」「保存」と共に
「研究」を含むとあります。

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html (2024-02-14 参照)



神明宮の境内社とされた蚕影（こかげ）神社。「中河原養蚕組合」が奉納した銘板が掛けられる。中河原。2024/01/23

結城紬の製作工程を構成する要素には、
 蚕、蚕が食べるクワ、クワが育つ沖積土、
 沖積土をもたらす川、糸を紡ぎ紬を織る道具の材、
 人々の信仰とそれに使う写真の板のようなもの....。

村名	紺屋	下駄	屋根葺	大工	木挽	桶屋	鋳掛	綿打	畳さし	建具や	理髪	黒鋏	摺白	附木	箆
延島	03		01	02	01		01	01			01	02			
田川	02										02	01	01		
福良	02		02	02		01		04			02	04			
梁	01			03	01			02	01			01			
中河原	01		01	02				01		01					
中島	01		01	04		02		01				01			
高椅		01	04	01	01	01					02	02	01	02	01
新田												01			
萱橋(桑)			02	01											04
東山田(〃)					02										
北飯田(〃)												01			

絹地区各村の諸職人(明治21年/1888年)。出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、208-209頁

「大工・屋根葺などが各村々に(中略)綿打(中略)紺屋や箆職(中略)同地区で養蚕・蚕種業、結城紬(中略)の生産が展開したことにより、社会的分業が思川以西の水田地域の村々より進んでいた(後略)」

地域と人々の心身の結びつき

「結城機業は歴史的伝統とそれが保有する
独特の技術を集積して、農家の内部に1つ1つの
工場をもつ農村工業地帯を形成している」。

「品種の多様性と精巧緻密を生命とするので、
独特の生産形態をとって機械化せず、
いつまでも歴史的停滞をつづけて
特殊織物を生産し需要に応じている」。



社会福祉法人パステルが管理する桑園から発生したクワの剪定枝。出井。2023/10/28

無形文化遺産を中心に地域の自然と生きる知と技を
守り継ぎ、危機に備え合う当条約の趣旨は、
絹地区の過去の事実と未来の可能性に適っては...?

桑枝から作る和紙、マルチング材なども地域循環共生圏構築の一環に

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと



向田橋、主要地方道146号へ続く市道で撮影した連続写真より。下梁。2024/01/19

「南北方向には県道が3本あるが、東西方向には市道のみ。市道の中では、大型車の交通量が最大。国道50号のバイパスのように使われてしまう」。踏査中、各路線でこうした状況を確認しました。



主要地方道146号を背に、向田橋の側から前スライドに載せた市道を見る。西梁。2024/01/16

主要地方道146号に通じる市道を、向田橋側から...。
中央には、惜しまれつつ閉店したコンビニエンスストアが写ります。



西高椅。2024/01/16



絹ふれあいの郷協遊歩道。梁。2024/01/16



千年の池。中高椅。2024/01/19



八幡宮参道。上高椅。2024/01/19



稲荷神社、中島公民館。中島。2024/01/22



神明宮前の辻、中河原。2024/01/23

広域交通のための道路と生活道路が区分できれば、
すでにある歩行者空間がより生きるでしょう。



民家に設けられた堤防状の盛土。舟戸。2024/01/22



民家の笹垣。舟戸。2024/01/22

微高地に居を構えるだけでなく、敷地の周囲に
堤と生垣を巡らせる家や、笹を垣にして万が一
水害に遭った際に水の流速を落とし、土砂を漉し、
地表を保護しようとする家が見受けられます。



写真左: タゲリ。前舟戸。2024/01/22。写真右: 出典: Alpsdake (2013/01/01) CC BY-SA 3.0 <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=23665690>

踏査では、モンゴルとの渡りが確認されている
シギ・チドリ類の冬鳥、タゲリを観察しました。
「湿田または浅く湛水された水田では、(中略) タゲリ
(中略) 等の水鳥類がドジョウや貧毛類等の (後略)」



薬師堂。篠原。2024/01/19



瑠璃光薬師堂。上福良。2024/01/22

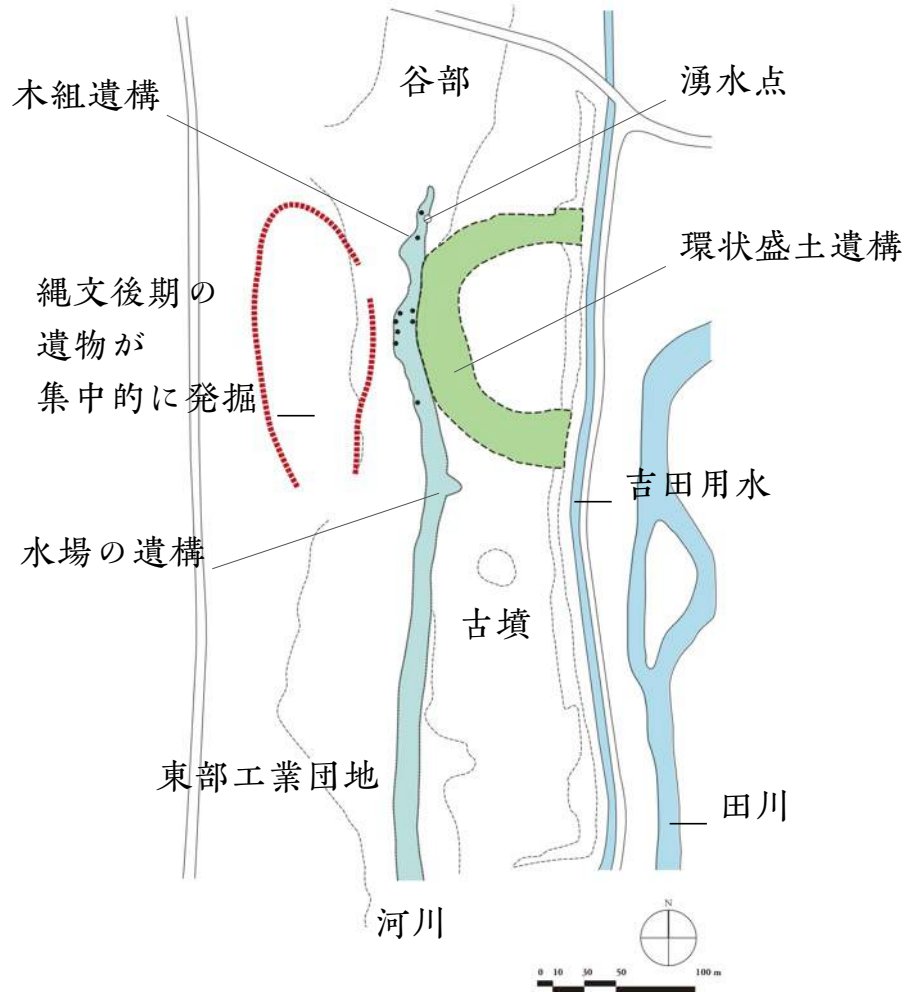


薬師堂。請地(うけじ)。2024/01/22



薬師観音堂。中河原。2024/01/23

「古い時代の薬師堂は村の診療所であったのです」
今日では「年寄りが病院も行けない」との意見が。



寺野東遺跡における水場及び木組の遺構

環状盛土遺構(寺野東遺跡)。梁。2021/09/16

寺野東遺跡に、台地に湧く水を木の実のアク抜きに
用いた (ゆるやかな流れが適していた) 水場の遺構が。

旧石器時代、3万2千年以上前の遺物、縄文-平安各期の集落跡が発掘される